

管理番号

58

研究内容の説明文

献血者説明用課題名※ (括弧内は公募申請課題名)	膠原病などの自己免疫疾患の発症機序の理解を目指した受容体の研究 (ヒト DCIR の機能理解に基づいた自己免疫性疾患治療の標的分子の検出)
研究開発期間 (西暦)	2024 年 5 月～ 2027 年 3 月
研究機関名	東北医科薬科大学医学部免疫学教室
研究責任者職氏名	講師・海部知則

※理解しやすく、平易な文言を使用した課題名

研究の説明

1 研究の目的・意義・予測される研究の成果等

DCIR (抑制性 C 型レクチン受容体) は自然免疫で作用する重要な抑制受容体のひとつです。動物実験の結果から DCIR による制御破綻が自己免疫疾患の発症につながる事が分かり、その発症誘導に生体内に存在する自己成分が関与することが分かってきました。この自己成分は難病である SLE (全身性エリテマトーデス) を含む膠原病との関連が示唆されています。そこで自己免疫疾患の発症・病態形成に関与する生体内に存在する自己成分 (細胞成分など) を検出します。このことから自己免疫疾患の発症機序・病態形成の仕組みを理解し、新規治療法の開発につながると期待しています。

2 使用する献血血液の種類・情報の項目

献血血液の種類: 検査残余血液 (血清)

献血血液の情報: なし

3 共同研究機関及びその研究責任者氏名

《献血血液を使用する共同研究機関》

なし

《献血血液を使用しない共同研究機関》

なし

4 献血血液の利用を開始する予定日

2024 年 6 月 17 日 (献血血液の供与開始後)

5 研究方法《献血血液の具体的な使用目的・使用方法含む》

献血血液のヒト遺伝子解析: ☐行いません。 ☒行います。

《研究方法》

・自己免疫疾患との関連が示唆された自己成分を検出します。献血血液から血清を調製し、回収キットにより自己成分を調製します。その後、血清中の自己成分を qPCR (定量 PCR) で検出します。qPCR では遺伝子の発現量を解析しますが、遺伝子の核酸配列は決定しませんので個人を特定するような解析は行いません。膠原病の患者サンプルも同様に解析し自己成分の発現量を比較検討します。

6 献血血液の使用への同意の撤回について

研究に使用される前で、個人の特定ができる状態であれば同意の撤回が出来ます。

7 上記 6 を受け付ける方法

「献血の同意説明書」の添付資料の記載にしたがって連絡をお願いします。

受付番号	
------	--

c 本研究に関する問い合わせ先

所属	東北医科薬科大学医学部免疫学教室
担当者	海部知則
電話	022-290-8726
Mail	kaifu@tohoku-mpu.ac.jp